

149 美術鑑賞から知ることのできる真実

美術は科学に勝ることが可能か

2025

真鍋友範

私は画家ジョルジョーネが優しい人物であることを知っている。

当然疑問が生じるだろう。

何故 400 年前の人物の性格を優しい人物と言い切れるのか。その根拠は何なのか

では、その理由をイタリアルネサンス ヴェネチア派の画家ジョルジョーネの絵画表現を例に語ろう。

ジョルジョーネの最も人気のあった表現分野は、宗教画でも。肖像画でもなく、追悼画であったことは、別論考で既に述べてきたので、ここでは、追悼画に焦点を当てて検証する。

では、具体的に、この根拠となる描画をチェックして行こう。

まずは、《カステロ・フランコ祭壇画》だ。この祭壇画の内容は、追悼画でもある。追悼画であることは、残された記録からも明らかだ。亡くなった兵士の父親が、ジョルジョーネ工房に発注したものだ。

ジョルジョーネは、田園風景の遠い背景に居る【甲冑姿の二人の人物】を描いている。一人は腰掛けていて、談笑しているように読み取れる。つまり亡くなった人物の友人とともに、天上界（田園風景）にいることを抒情詩的に表現している。

次は、《羊飼いの礼拝》だ。中央の暗く、しかも不鮮明な顔色の人物は、ジョ

ルジョーネ の表す追悼対象者だ。彼の横には、幼児イエスへの礼拝に参加する人物が同伴している。

では、《田園の合奏》はどうか。中央の赤い衣服の人物は、顔色の表現を見れば、やはり暗く不鮮明だ。《羊飼いの礼拝》に登場する人物と同様、今は亡き追悼対象人物だ。その隣には、共に音楽を楽しもうとする友人が描かれている。

また、《三人の哲学者》でも、追悼対象のターバンを被る赤い上品な衣服の船主の隣には、天文学者図と航海に必要なディバイダーをもつ船長もしくは航海士の友人が描かれている。おそらく海難事故あるいはイスラム勢力との海上での争いで亡くなった人物であろうが、この人物が隣にいる。

このように、ジョルジョーネの描く追悼画には、故人の友人が登場するのだ。

何故だろうか。恐らく、ジョルジョーネが、ヴェネチアの貴族や富裕な商人から追悼画制作の依頼を受けたなら、各家庭のもつ事情や、死に至る経緯、故人の趣味などを聞いていたに違いない。

ジョルジョーネは、各家庭の個人に纏わる個々の事情に基づいて、画面を合成して物語を構築していたのだ。

そこで、表現された甲斐が内容の特徴として、ジョルジョーネは天上界の住人である故人を単独で配置せず、身近であった友人と共に描いたのだ。

この表現には、ジョルジョーネの故人や身内を無くした追悼画発注家族への優しい寄り添いの心情が込められ、これらの表現に到達したと信じられるのだ。

これらが、私はジョルジョーネが優しい人物であった、と人柄を判断する根拠になっている。

科学ではない、一枚の絵が語る絵画内容は、数百年の年月差を超越して、人間心理の奥底を判定する材料であり、科学を超えうる証拠とも言えるのではないだろうか。